

「ホストファミリーを通して広がった世界」

北野 彰子 さん

我が家は、2012年度と2016年度の2度、「ハッセルト市学生代表団」のホストファミリーを体験させていただきました。1度目の受け入れの際は、ベルギーについては、チョコレートがおいしいヨーロッパの国というぐらいの認識しかありませんでしたが、留学生のマティアスはベルギーの国での生活やハッセルトの街のことを詳しく教えてくれて、ベルギーという国が彼を通してとても身近に感じられ親しみを覚えたことを覚えています。受け入れ期間中は食事を共にし、週末は家族で過ごすことで、滞在を終えるころにはすっかり家族の一員になっていました。当時2歳と4歳だった子どもたちにとっては、とびきり優しくてかっこいいお兄ちゃんだったようです。マティアスとは帰国後も交流が続いており、家族の誕生日やクリスマスのメッセージカードのやり取りや、なにげない日常でのメール交換をしています。2014年には、私たちがハッセルトに遊びに行き、彼とその家族は私たちを温かく迎えてくれました。ベルギーに到着して出迎えてくれた時に、空には2重の虹が架かっていて、感動しながらみんなと一緒に空を見上げたことを覚えています。まるで私たち2家族の出会いを祝福しているかのように思えたからです。

そして当時17歳だったマティアスは昨秋、無事に学業を終えて就職したという報告をしてくれました。彼は、「初めてのお給料で私たち家族に会いにもう一度日本に遊びに行く」といってくれました。そんな言葉を聞くことができ、そしてまた再会できることを心から楽しみに、そしてうれしく思っています。

2度目の受け入れをさせていただいたティボはとても勤勉家で、将来は日本語の通訳になりたいという明確な夢をもっている青年でした。日本語がとても上手で、滞在中もずっとなれない日本語で一生懸命に受け答えるその姿勢は素晴らしく、感銘を受けました。子どもたちも言葉にはしないものの、彼が母国語でない多言語を学ぶ姿勢をしっかりと感じ取ったことと思います。

ティボを通じてまだお会いしたことのない彼の母親ともインターネットを通じて交流するようになり、お互いに将来の再会を楽しみにしています。

このように2度にわたって留学生を受け入れさせていただき、交流が続いていることをとても嬉しく思っています。話す言葉や環境は違えど、人としての思いやりや優しさはなんら変わらないという当たり前のことを肌で感じる素晴らしい経験となりました。

このような機会をいただき、感謝しています。



★伊丹市国際・平和交流協会 国際交流ボランティア募集★

当協会では下記のボランティアを募集しています。ご自身の活動の幅と交流の輪が広がりますよ♪

- ①通訳・翻訳（国際姉妹・友好都市来日時の交流事業における通訳など）
- ②ホームステイ・ホームビジット（国際姉妹・友好都市来日時の滞在受入・一時訪問）
- ③日本語学習サロンの運営協力（会場準備・受付）またはボランティア講師
- ④当協会の運営補助・事務補助（イベントのお手伝い、郵便物発送事務のお手伝いなど）

※いずれも、お申し込み・お問い合わせは、事務局（伊丹市国際・平和課内）までお願いします。連絡先は表紙ページの右上部に掲載しています。



編集後記

おかげさまで会報誌「フレンドシップ」第10号を発行することとなりました。当協会の事業報告、会員の皆さん等からのご投稿により充実した内容でお届けしております。本誌につきまして、これからもご愛読くださいますようよろしくお願い申し上げます。